

令和のW菊五郎（5月9日、歌舞伎襲名披露）

上原 昇（2組）

映画鑑賞を趣味とする筆者ですが、時々誘われたりして演劇や歌舞伎を観に行くことがあります。特に歌舞伎で大きな名跡を継ぐ襲名披露公演は興味があるので、歌舞伎座（東銀座）に足を運んだりしています。

平成最後の年、2018年1月には、高麗屋三代襲名披露を観に行きました。

歌舞伎に興味のない人にはピンと来ないかもしれませんが、三代同時襲名というのはなかなか難しいものです。

この時は、幸四郎改め2代目松本白鸚、染五郎改め10代目松本幸四郎、金太郎改め8代目市川染五郎の親子三代同時襲名でした。

さて、元号が令和に変わって7年目の今年の5月、今度は音羽屋三代揃っての襲名披露公演が歌舞伎座で始まりました。

<https://www.kabuki-bito.jp/news/8945>

今回の襲名は少し変則です。菊之助改め8代目尾上菊五郎（1977年生）、丑之助改め6代目尾上菊之助（2013年生）は順当として、現在の7代目菊五郎（1942年生）もそのまま名前を変えません。7代目は今年83歳になりますが、初舞台が1948年（5歳、丑之助）、菊五郎の襲名が1973年といえますから、その芸歴の長さには敬服します。

大名跡「菊五郎」が二人並立するのは歌舞伎400年史上初のことだそうです。

7代目はインタビューに答えて「歴代菊五郎はみんな菊五郎で生涯を全うしています。私も最期まで菊五郎でいようと思いました」と話しています。

筆者が音羽屋最員の知人に軽口で、「7代目は名跡を“菊翁”にしようと思ったが、“木久扇”という変な落語家がいて止めたのでは」と言ったところ、「何をつまらないことを」と冷やかな目で見られました。

5月2日、東京の歌舞伎座を皮切りに大阪・松竹座、名古屋・御園座、京都・南座、福岡・博多座と続く襲名披露公演はエンタメ界の大イベントです。

筆者は5月9日の夜の襲名披露公演を楽しんできました。

歌舞伎座前は開場を待つ客で溢れかえり、中に入るとロビーには7代目の奥さんで8代目のお母さんの富司純子（旧・藤純子）の顔も見え、開演前には高円宮妃殿下も席に案内されるなど、いつもと違う華やかさでした。

襲名披露での目玉は口上です。襲名者に近い大勢の役者が舞台に勢揃いしてお祝いの言葉（面白い話で沸かせることも）を次々に述べます。今回は高齢の7代目に配慮してか、松緑、團十郎、玉三郎といった主要幹部役者5人による型通りの口上となりました。

当夜の演目『弁天娘女男白波』では大掛かりな舞台道具転換、菊五郎劇団による息の合った大立ち廻り、ジュニア役者たちのちびっこ白波五人男揃い踏みなど、伝統芸能の面白さを堪能しました。

歌舞伎界で大名跡の親子三代襲名披露というのは、これからもしばらくは観る機会はないでしょう。

公演後の東銀座の夜はあいにくの雨降りとなりましたが、歌舞伎座周辺には令和のW菊五郎を祝う熱気が漂っていました。

新 8 代目菊五郎、新 6 代目菊之助のますますの活躍、そして人間国宝 7 代目菊五郎のこれからの長生きを願っています。



歌舞伎座の襲名祝幕（日本画家田淵俊夫作「雲上富士」）

（2025 年 5 月 10 日記）

以上